『中国農業の構造と変動』

田島俊雄著
佐藤宏

本書は、著者が一九七〇年代末以降精力的に展開してきた中国農業にかんする実証研究をまとめたボリューム感誇れる力作である。第一章「課題と方法」、第二章「中国農業の構造と変動」、第三章「農業改革・開放後の農業構造変動にかんする主要な問題」、第四章「農業の市場変動」など、著者の専門知識を生かした分析が展開される。既存研究のサーベイも網羅的かつよく整理されたもので、後進の者にとって有用な研究の手引きとなっている。

岩波書店、一九七〇年四月、三三五八頁

123 (409)
現代中国農業に関する理解がより深まると思われる。

第三章では、後に続く連作への導入を兼ねて、民国期から九〇年代に至る华北地区の農業の歴史の展開を通じて、農法・技術の変革、農業生産力模様の面から踏まえている。農作業技術として世界的におきわたって高水準に達している今日の北農業産業を、改革・連作型・農法を基盤として、民国期以来の商品作物導入による作物体系変化、人民共和国建国後のインフラ建設、多毛作物・労働集約化、近代的投入増加および新商品導入などを分野別にアプローチした。報告書の特徴は、地方農家の経験を地平に並べたものであり、農家家系を含む地域の経済構造の変化を関連づけつつ、農家分野の研究を通じて、農業構造の変化を理解している。

第五章は、九〇年代後半以降の中国農業において収穫過減の壁が明らかになったとの認識のもとに、北京郊外順義県および山西省大同県の調査を依拠して、华北地農業における農業作業の研究結果を検討したものである。前者は地域における集大成の研究であるが、後者は地域の農業構造を考察し、農業構造がどのように変化したのか、また、その変化が農業経済の成立に与えた影響を検討している。

以上、各章の主たる内容を急ぎ足で整理してきた。本書はまた、農業経済の分析視点に市場と政府、市場と組織の代替関係を伴うものである。農業の分析視点を加味した複雑な研究 картинを描いており、また実証面では実地調査によるオリジナルな資料操作を行っている。
『中世後期フィレンツェ毛織物工業史』

本书は、一九九一年に出版された中世イタリア史研究者、星野秀利氏の記念碑的な労作の翻訳である。星野氏は、一九六二年にイタリアへ渡り、その後帰国することなくイタリアに留まって、毛織物工業を中心にフィレンツェ経済史の研究を続けていた。そして、その十八年間の研究の集大成として一九七八年にイタリアで出版されたのが、La storia della lana in Firenze nel basso Medioevo. Il commercio della lana e il mercato dei panni fiorentini secoli XIII-XV (中世後期のフィレンツェにおける毛織物工業。二一三世紀から二五世紀の羊毛貿易とフィレンツェ毛織物の市場)で、日本での本の原書である。

本書は、一九九一年に出版された中世イタリア史研究者、星野秀利氏の記念碑的な労作の翻訳である。星野氏は、一九六二年にイタリアへ渡り、その後帰国することなくイタリアに留まって、毛織物工業を中心にフィレンツェ経済史の研究を続けていた。そして、その十八年間の研究の集大成として一九七八年にイタリアで出版されたのが、La storia della lana in Firenze nel basso Medioevo. Il commercio della lana e il mercato dei panni fiorentini secoli XIII-XV (中世後期のフィレンツェにおける毛織物工業。二一三世紀から二五世紀の羊毛貿易とフィレンツェ毛織物の市場)で、日本での本の原書である。